

# LIBRARY NEWS

令和5年1月11日 No.10

新座市立第三中学校

校長 和久井 功雄

(図書室だより) 図書整理員 名本 浩子

新しい年を迎え、三中図書室も心新たに動き出しました。本年も、みなさんが読みたくなるような本をたくさん用意し、居心地のよい図書室づくりをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、年末年始にかけて、テレビで お笑い芸人の番組がけっこう放映されていましたが、毎年恒例の、日本一の漫才師を決める番組を観ていて、漫才に限らず、絵にしても、書道にしても、本にしても、何にしても審査されるものは、審査する人の感性が影響するのではないかと思えました。芸人という職業も、優勝するまで決して順風満帆ではなく、人には言えない、見えない苦勞がたくさんあったのだと思います。芸人としての活躍が、自分たちの作ったネタが、日の目を見るまでの長い道のり。だから、優勝したコンビの喜ぶ姿やライバルの芸を見て笑い、負けたにもかかわらず、勝者に祝福の拍手を贈る他の芸人たちも、その道のりの厳しさを十分すぎるほどわかっているし、大変だけれど、それ以上に、この世界が好きなのだと感じました。

本も同じ。数え切れないほどの作家志望の人がいて、出版社に認められたり、何かの賞を受賞したりして、ようやく手にした作家への第一歩。出版して本屋に並べられても、読者の手に渡り、読まれなければ、その本は埋もれてしまう。そんな厳しい世界で、ずっと生き続けなければならない。

冬休み中に読んだ、早見和真の『新！店長がバカすぎて』の中に、「大半の作家と読者は出会えないまま終わってしまう。たとえある作品がある読者にとって人生の一冊になるものであったとしても、出会えなければ存在しないにも等しいのだ。」という一節がありました。みなさんに、すてきな本との出会いがたくさんありますようにと願いながら、今年も、図書室で、みなさんの来室をお待ちしています。

話は今年の干支、「ウサギ」に変わります。ウサギというと、「うさぎ追いし かの山」の歌詞で始まる童謡『ふるさと』や、サメをだましたウサギが皮をはがされてしまうという神話「因幡の白兔」などで、古くからなじみのある動物です。また、ミッフィー、マイメロディ、シルバニアファミリーといったキャラクターも、多くの人に愛されています。一方、因幡の白兔や、ウサギとカメ、かちかち山のウサギのように、昔話では、ずる賢く、そのために痛い目にあう、残念ないきものとして登場することが多いようです。

ディズニーアニメにもなっている、多くの人に愛されている不朽の名作、ルイス・キャロル作、『不思議の国のアリス』もウサギが登場します。アリスを不思議の国に導いたのは、大きな懐中時計を持った白ウサギです。他にも、茶会に三月ウサギが登場します。ビンのなかの飲み物を飲むと身体がちぢんだり、お菓子を食べると大きくなったり、鳥や虫たちが話したり。不思議なことが次から次に起こり、アリスといっしょに冒険するような気持ちになり、子どものころ、夢中になって読んだ本の一つではないでしょうか。

では、この『不思議の国のアリス』からの問題です。アリスが飼っている猫の名前は、次の①～③のうちのどれでしょう。

- ① グリフォン
- ② チェシャ
- ③ ダイナ



前号のクイズ、映画の脚本を書いた作者自身が書き下ろした、自称「サンタクロース」のクリスがくり広げるクリスマスの話は、①のヴァレンティン・デイヴィス作「34丁目の奇跡」でした。

今回のクイズのヒントの本は、書架の39、分類番号「933」（外国の文学）にあります。2007年の中学生の読書感想文 課題図書『一億百万光年先に住むウサギ』や、人気作家、伊坂幸太郎の予測不能のミステリー『ホワイトラビット』など タイトルにウサギが入った小説もありますし、「因幡の白兔」を収録した、日本最古の歴史書『古事記』も古典の書架にあります。年の初めに、今年の干支の「ウサギ」に関する本や干支についての本にふれてみてはいかがですか。多くの来室をお待ちしています。

昨年末に届いた新着図書を、引き続き 紹介します。

### 『汝、星のごとく』

ななじ  
なぎら ゆう/著 (講談社)



読み終わりに近づくと、タイトルの意味と冒頭の場面で抱いた違和感の理由がはっきりする。さすが、本屋大賞作家だと感心する。

惹かれ合い、すれ違い、別れ、再び互いを求め合う。一つではない、愛の形がある。

切なさだけでは終わらない。一筋の光に救われる物語。

【第168回 直木賞候補】  
【キノバス! 2023 第1位】など  
賞やノミネート、ランクイン多数!

### 『此の世の果ての殺人』

こ  
荒木あかね/著 (講談社)



小惑星が日本に衝突する。約2ヶ月で人類は滅亡する。そんなとき、女性の死体を発見。連続殺人事件と関連があるのか。

犯人を捜し出す? 警察でもないのに。あと2ヶ月しか生きられないのに?

読者も事件に引き込まれる。デビュー作とは思えない、卓越した一冊です。

史上最年少  
第68回  
江戸川乱歩賞  
受賞!

## タイトルが怪しい! 怖い! ミステリー

『いけないII』 道尾 秀介/著

『仕掛島』 東川 篤哉/著

『殺人の多い料理店』 辻 真先/著



「いけない1」もあります!

「首なし男を助けてはいけない」など「〇〇してはいけない」の章からなる、「体験型ミステリー」第2弾。

(文藝春秋)



瀬戸内の孤島に集められた一族。鬼面の怪人物、消える人影、一族が秘密にしていた23年前の悲劇。続発する怪事の果てに現れた真相とは?!

(東京創元社)



どこかで聞いたようなタイトル。そう、宮沢賢治関連の推理小説。宮沢賢治の作品と合わせて読みたい!

(実業之日本社文庫)

### 図書館教育ニュース

YouTube 再生  
2000万回!

### [令和4年度 埼玉県推奨図書]

エヌエー  
『N/A』 年森 瑛/著



松井まどかの体重は40キロ以下。そのわけは生理が嫌で、それを止めるためです。「嫌なものは嫌」。拒食症、LGBT といった既存の枠があるけれど「本当はどんな属性もふさわしくない」。まどかの切実な言葉が胸に残ります。(図書館教育ニュース参照)

第167回 匠巻のデビュー作  
芥川賞候補作

(文藝春秋)

『フリーハグ!』

くわばら こういち  
桑原 功一 /著



(日本図書センター)

「人と人はつながれる」僕はそう信じてハグをする。韓国、中国、台湾...世界とつながった10年間の記録!

(本の帯より)

- ・『青いつばさ』 シェフ・アールツ/作
  - ・『赤い糸でむすばれた姉妹』 キャロル・アントワネット・ピーコック/作
  - ・『「ハーフ」ってなんだろう?』 下地ローレンス吉考/著
  - ・『そらのことばが降ってくる』 高柳 克弘/作
- いとうみく作『あしたの幸福』は書架35にあります。